

(様式1)

(成果情報名) 耕作放棄地のシバ草地化技術実証試験			
[要約] 2006年から2007年にかけての各シバ型牧草の適性試験の結果、センチピードグラスが最も良好な生育を示した。今回は、センチピードグラスとノシバについて、播種と苗移植の二つの方法を用い栽培試験を行った。			
(実施機関・部・担当名) 滋賀県畜産技術振興センター 大家畜生産技術担当 竹下雅文、藤田雅彦		[実施期間] 2006年～2011年	
[部会] 畜産	[分野] 高品質化技術	[予算区分] 県単	[成果分類] 指導

[背景・ねらい]

耕作放棄地での和牛の飼養にはシバが適しており、これまでの試験で滋賀県ではシバ型牧草のうち、センチピードグラスが最も適していることが分かった。そこで今回は実際に耕作放棄水田を使って、センチピードグラスおよびノシバを栽培し、技術の実証試験を行うこととする。

[成果の内容・特徴]

[成果の活用面・留意点]

造成2年目以降の草地化の達成程度と和牛放牧の実用性の検討、さらに次年度以降センチピードグラスの耕起播種法による草地面積の拡大と普及展示。

[具体的データ]

2006年から2007年にかけての各シバ型牧草の適性試験の結果、センチピードグラスが最も良好な生育を示した。今回は、センチピードグラスとノシバについて、播種と苗移植の二つの方法を用い栽培試験を行った。今年度の結果は以下のとおり。

(1) 播種法

発芽は6月2日であった。センチピードグラスの発芽良否と初期生育はそれぞれ9段階評価の3と5、定着時草勢は7～10月の期間中5～7と優れていた。ノシバはセンチピードグラスに比べそれぞれ劣っていた。拡がりの程度はセンチピードグラスが一年目最終調査で80%の被度となったのに比べ、ノシバは5%と少なかった。

(2) 苗移植法

セルトレイに播種し、41日育苗した苗を移植した。移植後の定着時草勢はセンチピードグラスが7～10月の期間中5～7と優れていた。ノシバは劣った。拡がり程度は株が大きく成長したセンチピードグラスが一年目最終調査で15%、ノシバは7%であった。

以上の結果から、播種法と苗移植法のいずれでもセンチピードグラスは良好な生育を示し、とくに播種法の場合は80%の被度に達するなど、1年目からシバ草地としての利用が可能であることが分かった。一方、ノシバでの草地造成は比較的困難と考えられた。

[その他]

・研究課題名

大課題名：

中課題名：

小課題名：

・研究担当者名：竹下雅文

・その他特記事項